

コメの高騰を考える

食は生存の基本、安心のコメ作りを



米原市民報

日本共産党米原市議員

山脇正孝 Tel 52-1093

日本共産党米原市議員

藤田正雄 Tel 55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

今後の予測は難しい

今回のコメの高騰問題で今の現状について政府の考えを、次のように報道しています。

約21万トの政府備蓄米放出にもかかわらず、コメの店頭価格は高止まりが続く。農水省の調査によると、スーパーの店頭価格は4月7～13日の週に5^キ当たり4217円となり、16週連続で値上がりした。一方、24年産米の相対取引価格は3月に前月比2%減の60^キ当たり2万5876円となり、ようやく最高値の更新がストップしたが、それでも過去3番目の高値となっており、年産平均価格は引き続き過去最高値を記録している。江藤拓農相は4月9日、上昇したコメの価格を落ち着かせるため、この夏の端境期まで切れ目なく政府備蓄米が供給されるよう、夏まで毎月売り渡しを実施すると表明。同月23～25日に第3回分として約10万トの入札を行った。ただ、政府備蓄米の放出が今後、需給にどのような影響を与えるか、予測することは難しいと述べています。

なぜ異常な高騰が続くのか

5^キのコメが従来の2倍の40000円以上になり「買えない」事態となっています。一方、コメ農家は収入が減り、中小の家族農家が減少しています。

昨年の「令和の米騒動」以後、国民の声に押されて政府は1月に備蓄米放出を発表し、やっと3月末から店頭に並んでいます。しか

コメの高騰が止まりません。しかし農家は減り続けています。この20年間で120万戸が離農しています。政府の大規模化一辺倒では2040年には国内ではコメの需要を賄いきれないと述べています。このような農政とコメ問題について考えてみました。

不足を認めない政府

し、店頭価格は16週連続値上がりしています。消費者にとつて主食であるコメの価格高騰は死活問題です。なぜ、混乱が続くのでしょうか。

江藤拓農水大臣は当初、「在庫が分散し供給が滞り目詰まりしたとして、コメ集荷団体の集荷量減の21万トを穴埋めすれば流通が円滑になると説明。さらに江藤大臣は「量として足りないと認識は持つていい」とコメ不足そのものを認めていません。しかし毎月発表の「民間在庫」は、前年比大きく減らしています。

いま、備蓄米使い切ると後がありません。備蓄米放出は1年以内に同じ量を買戻すことが条件のため効果は限定的です。25年産の前借りであり、根本的な改善にはならない上に、いま田植えが進む25年産のコメが豊作である保証はありません。

自民党農業政策の失敗

では、コメ不足の背景は何でしょう。20年にコロナ禍により「食べ

たくても食べられない人々」が一気に増え、米需要が落ち込み20～30万トの「コメ過剰」が発生しました。

生産米価1俵(60^キ) 8～9000円台にまで大暴落。しかし政府は何の手も打たず農家に生産調整を迫つ

ため23年には米の生産量は50万ト減少しました。22年2月のロシアによるウクライナ侵略や異常な円安で、輸入原料に頼る加工食品などあらゆる食品が一斉に値上げされると、生産者米価の暴落で相対的に値ごろ感のあるコメの消費が伸びました。需要が21万ト増えたことで政府の需給見込みが狂いました。

安心して米作りができる農政を

700万トのうちの2～3%、たった20万ト前後の需給の違いで生産者も消費者も価格の乱高下に苦しめられています。まさに自民党農政の失敗です。

コメ不足解消のためには、余裕を持った需給環境を作ることが必要です。そのため政府が責任をもってコメの増産を呼びかけ受給を安定させ、さらに政府の備蓄米の積み増しをすべきです。食えることは生存の基本です。安心して買える米価、安心してコメ作りが続けられる農政への転換が必要です。

3月30日に行われた農民連「令和の百姓一揆」はマスコミからも注目されました

